

実エンドウの品質不良莢における肥大不良胚珠の受精  
および肥大停止時期の同定

川西 孝秀<sup>1</sup>・神藤 宏<sup>1a</sup>・佐藤 卓<sup>2b</sup>

<sup>1</sup>和歌山県農林水産総合技術センター 農業試験場暖地園芸センター  
644-0024 御坊市塩屋町南塩屋 724

<sup>2</sup>千葉大学園芸学部 271-8510 松戸市 648

**Judgement of Fertilization and Stage of Stop Development of  
Underdeveloped Ovule in Unfilled Pea Pods (*Pisum sativum* L.)**

Takahide Kawanishi<sup>1</sup>, Hiroshi Shinto<sup>1a</sup> and Suguru Sato<sup>2b</sup>

<sup>1</sup>Horticultural Experiment Center, Wakayama Research Center of Agriculture Forestry Fisheries, Shioya-cho, Gobo,  
Wakayama 644-0024

<sup>2</sup>Chiba University, Matsudo, Chiba 271-8510

摘 要

子実肥大不良莢中では、正常に肥大した胚珠と肥大不良胚珠が混在し、そのうち正常胚珠は、成熟した正常莢内の胚珠と同傾向の相対 DNA 量を、肥大不良胚珠は登熟中の正常莢内における同じ大きさの胚珠とほぼ同様の相対 DNA 量を示した。さらに子実肥大不良莢における肥大不良胚珠の切片の観察から胚の発達が確認された。これらのことから、肥大不良胚珠は受精していることが示唆された。

---

<sup>a</sup>現 農林水産総合技術センター 農業試験場

<sup>b</sup>現 米国農務省海外農務部